




論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	森尾 太志
論文担当者	主査 戴 毅 
	副査 岸本 裕亮 
	副査 八木 秀司 
学位論文名	Relationship between the medial cuneiform bone morphology
	and the severity of hallux valgus
	( 内側楔状骨の骨形態と外反母趾重症度の関連性 )
論文審査の結果の要旨	
<p>内側楔状骨の骨形態特に内側楔状骨の遠位の傾斜角と外反母趾重症度との関連性についての報告は散見されるがいまだに一定の見解が得られていない。申請者は内側楔状骨の骨形態と外反母趾重症度との関連性を明らかにすることを目的に本研究を行なった。申請者の所属施設で2017年4月から2022年7月までに外反母趾と診断された18歳以上の91例(163足)を研究対象とした。荷重位単純X線足部正面像での外反母趾角(以下HVA)、第1-第2中足骨間角(以下IMA)および、内側楔状骨遠位傾斜角(以下DMCA)、内側楔状骨外側と中間楔状骨内側の長さの差(以下C1-2D)を計測した。対象をMild群、Moderate群、Severe群の3群に分け、各群のDMCA、C1-2Dを統計学的に比較した。また、内側楔状骨の骨形態(DMCA、C1-2D)と外反母趾重症度(HVA、IMA)の相関関係を検討した。結果として、HVAとDMCA、C1-2Dと正の相関を示した。HVAの平均は3群間に有意差があった。DMCAの平均値はMild群とSevere群、Moderate群とSevere群間に有意な差はあったが、Mild群とModerate群に有意な差はなかった。C1-2Dの平均値は3群間に有意差があった。また、IMAとDMCA、C1-2Dと正の相関を示した。IMAの平均3群間に有意差があった。DMCAの平均値はMild群とModerate群、Mild群とSevere群間に有意な差はあったが、Moderate群とSevere群に有意な差はなかった。C1-2Dの平均値はMild群とModerate群、Mild群とSevere群間に有意な差はあったが、Moderate群とSevere群に有意な差はなかった。本研究において、HVAおよびIMAはDMCAと正の相関を示したが、全ての群間で有意差は見られなかった。よってDMCAは外反母趾重症度を評価するツールとして有用ではない可能性がある。一方で内側楔状骨の長さの指標としてのC1-2DはHVAと最も高い正の相関関係を示し、重症度が高くなるほど大きくなった。このことからC1-2Dは外反母趾の重症度であるHVAと強く関連することが明らかになり、外反母趾進行の予測や治療法を決定する一助になる可能性が示唆された。</p> <p>本研究は外反母趾の診療において重要な知見が得られており、学位授与に値するものと判断した。</p>	